

古事記に学ぶ その21

応神天皇の御代と御子たち その1

<1> 15人の天皇を振り返る

仲哀天皇は、筑紫の國で52歳で他界したが、日嗣の御子である品陀和氣命（ほむだわけのみこと）がまだ幼かったので、息長帯比売命（おきながたらしひめのみこと：神功皇后）が任務を代行し、側近の大臣として建内宿禰が実務をこなしたというのが真相のようである。

のちに、この品陀和氣命（ほむだわけのみこと）が、15代応神天皇となって、次の世を治めた。

ここまで登場した15人の天皇を一表にまとめてみた。

年齢を見ると、史実なのか作り話なのか想像できるような部分もあるのだが……。

代	天皇の名（読み）	宮殿を構えた場所	死亡年齢	陵の場所
初代	神武（じんむ）	畝火の白檮原宮	137歳	畝傍山の東北
2	綏靖（すいぜい）	葛城の高岡	45歳	衝田の岡
3	安寧（あんねい）	片塩の浮穴	49歳	畝火山陰処
4	懿徳（いとく）	橿原軽の境岡	45歳	畝火山の真名子谷の上
5	孝昭（こうしょう）	葛城の掖上	93歳	掖上の博多の山の上
6	孝安（こうあん）	葛城の室の秋津島の宮	123歳	玉手の岡の上
7	孝靈（こうれい）	黒田の盧戸の宮	106歳	片岡の馬坂の上
8	孝元（こうげん）	軽の堺原の宮	57歳	剣池の中岡の上
9	開化（かいか）	春日の伊弉河	63歳	伊弉河の坂の上
10	崇神（すじん）	師木の水垣の宮	168歳	山野辺の道の勾の岡
11	垂仁（すいにん）	師木の玉垣の宮	153歳	菅原の御立野
12	景行（けいこう）	纏向の日代の宮	137歳	山野辺の道の上
13	成務（せいむ）	志賀の高穴穂（大津）	95歳	沙紀の多他那美
14	仲哀（ちゅうあい）	豊浦（長門）/訶志比（筑紫）	52歳	河内の恵我の長江
15	応神（おうじん）	軽島の明（あきら）の宮	130歳	河内の恵我藻伏岡陵

<2> 応神天皇の御代

品陀和氣命（ほむだわけのみこと）は軽島に明の宮（あきらのみや）を造り、応神天皇と名乗って天下を治めた。軽島の明の宮は、奈良県橿原市大軽町（近鉄橿原神宮駅の南東）で、現在は春日神社になっている。

この天皇は●品陀眞若王（ほむだのまわかのみこ）の三人の娘、●高木之入日売命（たかぎのいりひめのみこと）・●中日売命（なかつひめのみこと）・●弟日売命（おとひめのみこと）を妻とした。

品陀眞若王（ほむだのまわかのみこ）は、五百木之入日子命（いおきのいりひこのみこと）が、尾張の連の祖先である●建伊那陀宿禰（たけいなだのすくね）の娘●志理都紀斗売（しりつきとめ）を妻として生まれた子である。

五百木之入日子命は、12代の景行天皇と八坂之入日売命の間にできた子で、13代の成務天皇とは兄弟の関係になる。

応神天皇と高木之入日売命の間にできた御子は、●額田大中日子命(ぬかだおおなかひこのみこと)・●大山守命(おおやまりのみこと)・●伊奢之眞若命(いざのまわかのみこと)・●大原郎女(おおはらのいらつめ)・●高目郎女(こむくのいらつめ)の五柱だった。

応神天皇と中日売命の間にできた御子は、●木之荒田郎女(きのあらたのいらつめ)・●大雀命(おおさざきのみこと)・●根鳥命(ねとりのみこと)の三柱だった。

応神天皇と弟日売命の間にできた御子は、●阿倍郎女(あべのいらつめ)・●阿具知能三腹郎女(あはぢのみはらのいらつめ)・●木之菟野郎女(きのうのいらつめ)・●三野郎女(みののいらつめ)の四柱だった。(本文には五柱と書かれているが、四人しか名前が書いてない)

応神天皇が●丸邇之比布礼能意富美(わにのひふれのおおみ)の娘である●宮主矢河枝比売(みやぬしやがわえひめ)を妻として生まれた御子は、●宇遲能和紀郎子(うぢのわきのいらつこ)・●八田若郎女(やたのわきいらつめ)・●女鳥王(めどりのみこ)の三柱。

この妻の妹●袁那弁郎女(おなべのいらつめ)を妻として生まれた御子は、●宇遲之若郎女(うぢのわきいらつめ)。

また、●咋俣長日子王(くいまたながひこのみこ)の娘である●息長眞若中比売(おきながまわかなかつひめ)を妻として生まれた御子は、●若沼毛二俣王(わかぬけふたまたのみこ)、

桜井の田部の連の祖先である●島垂根(しまたりね)の娘、●系井比売(いといひめ)を妻として●速総別命(はやぶさわけのみこと)を生んだ。

さらに、日向(ひむか)の●泉長比売(いずみのながひめ)を妻として、●大羽江王(おおはえのみこ)・●小羽江王(をはえのみこ)・●幡日之若郎女(はたひのわきいらつめ)の三柱を生み、

●迦具漏比売(かぐろひめ)を妻として、●川原田郎女(かわらだのいらつめ)・●玉郎女(たまのいらつめ)・●忍坂大中比売(おさかのおおなかつひめ)・●登富志郎女(とおしのいらつめ)・●迦多遲王(かたちのみこ)の五柱を生んだ。

また、●葛城之野伊呂売(かつらぎののいろめ)を妻として、●伊奢能麻和迦王(いざのまわかのみこ)を生み、この天皇の御子は総計26柱いた。

この内、中日売命(なかひめのみこと)との間にできた第二子の大雀命(おおさざきのみこと)がのちに天下を治めた。

と書いてあるが、系図にまとめて見たら、妻の数は10人、御子の数は27柱になった。

<3> 応神天皇の後継者選び

天皇は、大山守命(おおやまりのみこと)・大雀命(おおさざきのみこと)・宇遲能和紀郎子(うぢのわきのいらつこ)の三人の御子を日嗣の御子と考えて、密かに心づもりをしていた。それは、一番年下の宇遲能和紀郎子を後継にしたいということだった。

ある日、「年上の子と年下の子のどちらが可愛いと思うか」と大山守命と大雀命の二人に尋ねた。

大山守命は、「年上の子の方がかわいいです」と答えたが、大雀命は、「年上の子はもう成人しているので、何も心配する必要はない。年下の子はまだ小さいので、それだけ可愛く思います。」と答えた。

天皇は、「私の考えも、それと同じだ」と言葉を返し、三人の御子たちにこんな命令を下した。

「大山守命は山や海に関する政治を行え。大雀命は天皇が治める政治を補佐する任にあたれ。宇遲能和紀郎子は天津日嗣(あまつひつぎ)となって天下を治めよ」

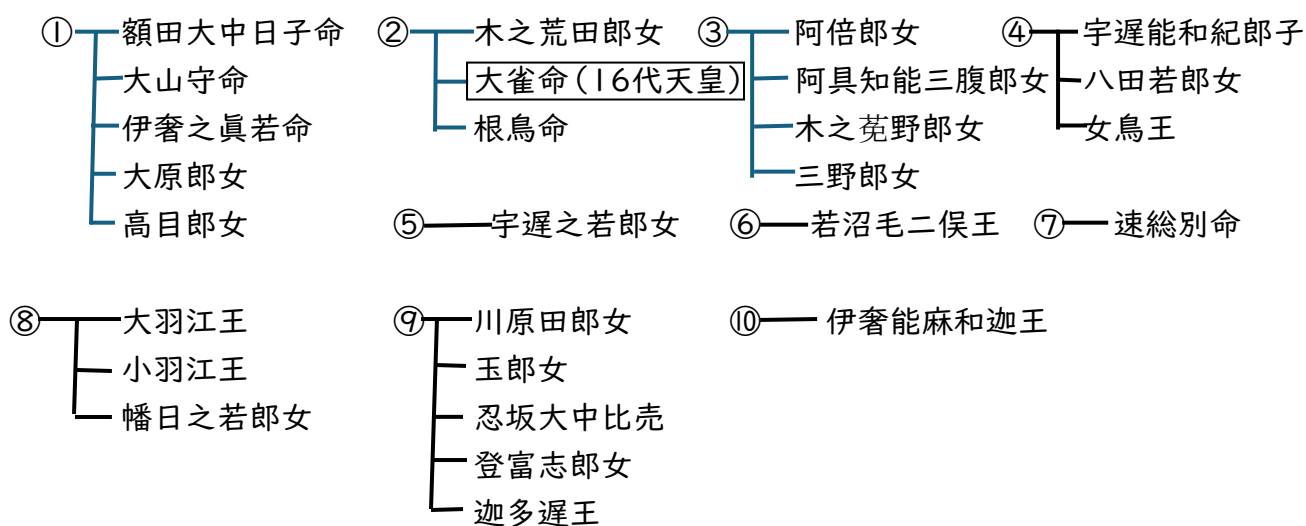
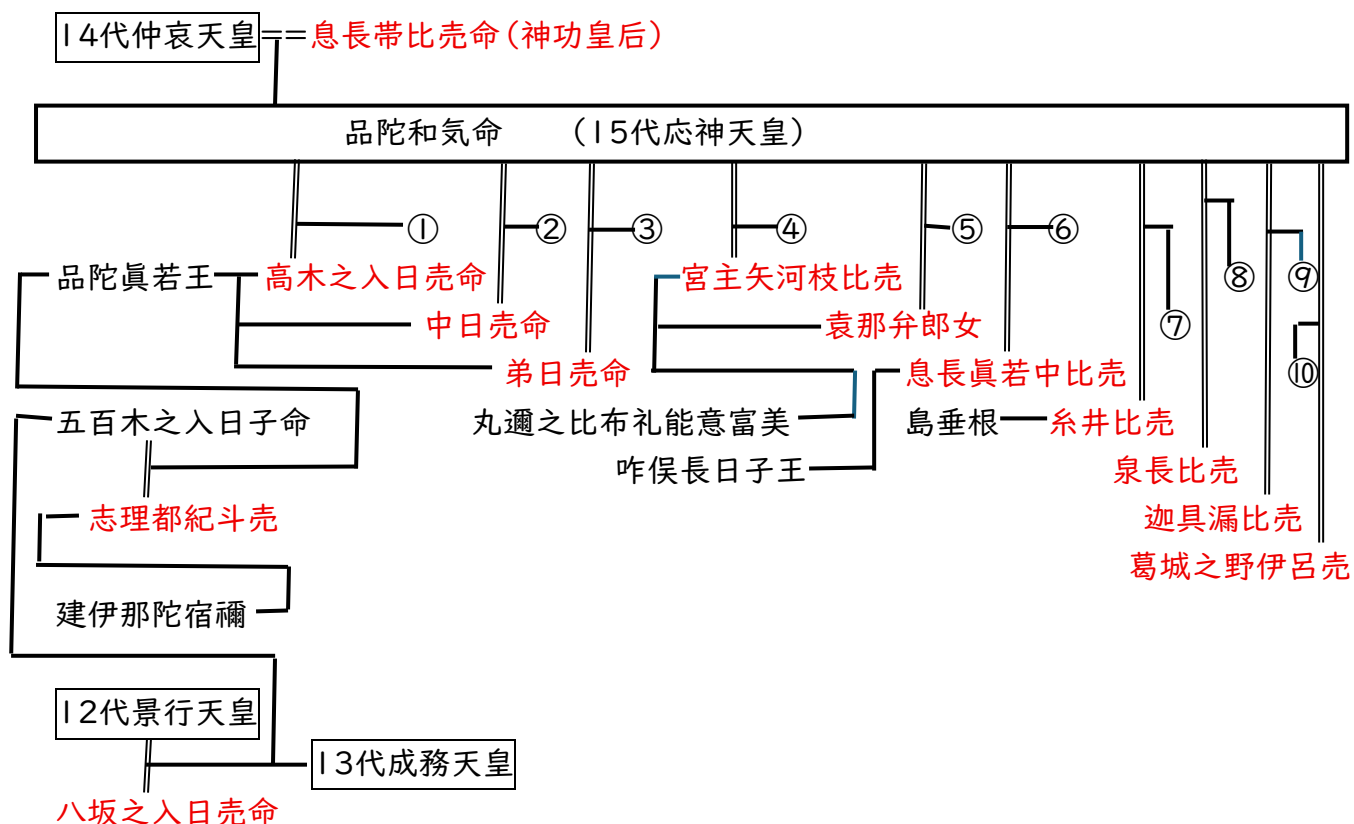
大雀命は、のちになってもこの命令に背くことはなかった。

古事記の中ではこんな記述になっており、応神天皇の後継者は、大雀命なのか宇遲能和紀郎子なの

よくわからない。古事記の中の「なぞ」と言われているぐらいだから、素人の私が理解できないのは、いたしかたないのかもしれない。

以上

応神天皇を中心とした系図



*参照した情報

古事記原文

https://www.seisaku.bz/kojiki_index.html